



2026年6月5日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ  
代表者名 代表取締役社長 上四元 絢  
(コード：6574 東証グロース)  
問合せ先 代表取締役社長 上四元 絢  
(TEL：03 (3770) 1190 (代表))

(再訂正) 「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の一部訂正について

2026年5月15日に開示いたしました「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」につきまして、一部訂正すべき事項がございましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、訂正箇所を表示につきましては、以下の区分によっております。

- ・ 下線 : 2026年5月29日付の訂正（以下「5/29訂正」）による変更箇所
- ・ 波線 : 本訂正（2026年6月5日付。以下「6/5訂正」）による変更箇所
- ・ 二重下線 : 5/29訂正及び6/5訂正の双方にわたる変更箇所

記

1. 訂正の理由

本訂正は、2026年5月29日付及び2026年6月5日付でそれぞれ公表いたしました「（訂正・数値データ訂正）「2026年3月期 決算短信〔IFRS〕（連結）」の一部訂正に関するお知らせ」の訂正内容に伴い、当初開示（2026年5月15日付）に記載した数値等に訂正が生じるため、実施するものであります。各訂正の詳細につきましては、当該決算短信訂正文書をご参照ください。

なお、当該訂正は当社グループの事業活動及び業績の継続性、並びに現預金残高等の資金的事実に影響を与えるものではありません。

2. 訂正の内容

| 訂正         | 主な訂正内容   |
|------------|--|
| 5/29訂正     | 連結数値の精査等（暗号資産会計処理の精緻化、連結子会社保有自己株式処理の徹底、未収法人税還付金の計上取消し、連結修正仕訳の見直し等）に伴い、連結業績・評価損除外後指標・セグメント別業績等を訂正。  |
| 6/5訂正（本訂正） | （ア）インベストメント&アドバイザー事業に係る収益の計上区分見直しによる売上収益の増加（+77百万円）<br>（イ）ネイル事業における全社調整コスト（法人税住民税均等割）の金額修正によるセグメント費用の見直し（セグメント利益+9百万円）<br>上記により連結ベースで売上収益+77百万円、営業利益+117百万円（5/29訂正値1,484百万円→6/5訂正値1,601百万円）、当期利益+117百万円変動。 |

【参考】訂正前後の数値比較（連結業績 今回実績（単位：百万円、EPSは円））（単位：百万円）

|          | 売上収益          | 営業利益         | 税引前利益        | 当期利益          | EPS（円）       |
|----------|---------------|--------------|--------------|---------------|--------------|
| A 5/15開示 | 15,500        | 1,795        | 1,647        | △951          | △1.97        |
| B 5/29訂正 | <u>15,440</u> | <u>1,484</u> | <u>1,304</u> | <u>△1,178</u> | <u>△2.49</u> |

|          |               |              |              |               |              |
|----------|---------------|--------------|--------------|---------------|--------------|
| B-A 増減額  | <u>△60</u>    | <u>△311</u>  | <u>△343</u>  | <u>△227</u>   | <u>△0.52</u> |
| C 6/5 訂正 | <u>15,517</u> | <u>1,601</u> | <u>1,420</u> | <u>△1,061</u> | <u>△2.25</u> |
| C-A 増減額  | <u>+17</u>    | <u>△194</u>  | <u>△227</u>  | <u>△110</u>   | <u>△0.28</u> |

【参考】訂正前後の数値比較（セグメント営業利益）（単位：百万円）

|           | ネイル        | コンサル         | ヘルスケア | I&A           | 調整額         | 連結営業利益       |
|-----------|------------|--------------|-------|---------------|-------------|--------------|
| A 5/15 開示 | 102        | 2,918        | 1,555 | △2,832        | 52          | 1,795        |
| B 5/29 訂正 | <u>68</u>  | <u>2,873</u> | 1,555 | △2,832        | <u>△180</u> | <u>1,484</u> |
| B-A 増減額   | <u>△34</u> | <u>△45</u>   | 0     | 0             | <u>△232</u> | <u>△311</u>  |
| C 6/5 訂正  | <u>116</u> | <u>2,873</u> | 1,555 | <u>△2,755</u> | <u>△188</u> | <u>1,601</u> |
| C-A 増減額   | <u>+14</u> | <u>△45</u>   | 0     | <u>+77</u>    | <u>△240</u> | <u>△194</u>  |

3. 訂正後全文

（以下、当初開示（2026年5月15日付「業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」）の全文を掲載し、変更箇所  
に上記区分の下線等を付して表示しております。）



2026年5月15日

各 位

会 社 名 株式会社コンヴァノ  
 代表者名 代表取締役社長 上四元 絢  
 （コード：6574 東証グロース）  
 問合せ先 代表取締役社長 上四元 絢  
 （TEL：03（3770）1190（代表））

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、本日、2026年3月期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の通期連結業績につきまして、2025年11月21日に公表いたしました通期業績予想と実績値との間に下記のとおり差異が生じたこと、並びに当社が保有する暗号資産（ビットコイン）に係る期末時価評価に基づく評価損を「その他の費用」として計上いたしましたこと、お知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異

（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：百万円）

|                              | 売上収益          | 営業利益          | 税引前利益         | 当期利益          | 親会社所有者<br>帰属当期<br>利益 | 基本的1株当<br>り当期利益 |
|------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|-----------------|
| 前回発表予想（A）<br>（2025年11月21日公表） | 14,950        | 5,990         | 5,990         | 3,918         | 3,918                | 7.70            |
| 今回実績（B）                      | <u>15,517</u> | <u>1,601</u>  | <u>1,420</u>  | <u>△1,061</u> | <u>△1,061</u>        | <u>△2.25</u>    |
| 増減額（B-A）                     | <u>+567</u>   | <u>△4,389</u> | <u>△4,570</u> | <u>△4,979</u> | <u>△4,979</u>        | —               |

|                          |       |       |       |    |    |      |
|--------------------------|-------|-------|-------|----|----|------|
| 増減率 (%)                  | +3.8  | △73.3 | △76.3 | —  | —  | —    |
| (ご参考) 前期実績<br>(2025年3月期) | 3,241 | 135   | 128   | 78 | 78 | 0.18 |

(注) 1. 金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

2. 基本的1株当たり当期利益は、IAS第33号「1株当たり利益」に基づき、当連結会計年度における期中平均株式数472,227,514株を分母として算出しております。当該分母は、2026年6月5日付で公表した再訂正後の「2026年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」と同一であります。前期実績(2025年3月期)の基本的1株当たり当期利益0.18円は、IAS第33.64項に基づき、2025年8月2日及び2025年9月1日付で実施された普通株式1株につき各10株(合計1株につき100株)の株式分割を、前連結会計年度の期首から行われたものと仮定して遡及的に算定したものであります。

## 2. 暗号資産期末時価評価損の影響を除いた実績値

上記1.のとおり、IFRS会計基準に基づく公式の業績数値においては前回予想と大きな差異が生じておりますが、当該差異の主因は、当社グループが保有する暗号資産(ビットコイン)の期末時価評価に伴う評価損△4,847百万円(その他の費用に計上)の計上であります。当該評価損は、現金支出を伴わない非資金性の損失であり、かつ将来における暗号資産価格の回復に応じて評価益として戻入れされる性質のものであります。

当該評価損の影響を除いた連結業績(以下「同評価損除外後ベース」といいます)でみますと、売上収益、営業利益、税引前利益のいずれも前回発表予想を上回って着地しており、当社グループの本業の収益基盤は前回発表予想策定時の想定を上回って堅調に拡大していることを確認しております。

なお、本資料における「同評価損除外後」ベースの当期純利益は、暗号資産期末時価評価損△4,847百万円のみを税引前利益から除外する一方、法人所得税費用につきましては、GAAPベース実績における連結法人所得税費用2,482百万円を固定して算定しております。当該算定方法は、暗号資産期末時価評価損の税務上の取扱い(損金不算入)に係る不確実性を排し、保守的な観点から実際の法人所得税費用負担をそのまま維持することにより、本業の収益力を最も厳格に保守的に評価することを目的としております。

(単位：百万円)

|            | 売上収益          | 営業利益 (同評価損除外後) | 税引前利益 (同評価損除外後) | 当期純利益 (同評価損除外後) | EPS (同評価損除外後) |
|------------|---------------|----------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 前回発表予想 (A) | 14,950        | 5,990          | 5,990           | 3,918           | 7.70円         |
| 今回実績 (B)   | <u>15,517</u> | <u>6,448</u>   | <u>6,267</u>    | <u>3,785</u>    | <u>8.02円</u>  |
| 増減額 (B-A)  | <u>+567</u>   | <u>+458</u>    | <u>+277</u>     | <u>△133</u>     | —             |
| 増減率 (%)    | <u>+3.8</u>   | <u>+7.6</u>    | <u>+4.6</u>     | <u>△3.4</u>     | —             |

### 【参考】「当期純利益(同評価損除外後)」の算出明細

(単位：百万円)

| 項目                 | 金額            | 内容                     |
|--------------------|---------------|------------------------|
| 税引前利益(連結損益計算書)     | <u>1,420</u>  | GAAP実績                 |
| (+) 暗号資産期末時価評価損    | +4,847        | 「その他の費用」より戻入れ          |
| 税引前利益(同評価損除外後)     | <u>6,267</u>  | 評価損除外後ベース              |
| (-) 法人所得税費用(固定)    | <u>△2,482</u> | 5/29訂正後の連結法人所得税費用を固定適用 |
| 当期純利益(同評価損除外後、参考値) | <u>3,785</u>  | 補足開示                   |

(注) 1. 上記「同評価損除外後」の各利益指標は、当社グループが保有する暗号資産(ビットコイン)の期末時価評価に伴い計上した評価損△4,847百万円(その他の費用)の影響を除外して算定したものであります。これらはIFRSに基づく公式の開示指標ではなく、当社が任意に開示する補足情報であります。

2. 「当期純利益(同評価損除外後)」3,785百万円は、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた税引前利益6,267百万円(GAAPベース税引前利益1,420百万円+暗号資産期末時価評価損4,847百万円)から、GAAPベース実績における連結法人所得税費用2,482百万円を控除することにより算出しております( $6,267 - 2,482 = 3,785$ )。

3. 本算定は法定実効税率による正規化を行わず、GAAPベースの実際の法人所得税費用2,482百万円を固定して適用しているため、税引前利益(同評価損除外後)6,267百万円に対する実効税率は39.60%(=

$2,482 \div 6,267$ と算定上は計算されます。当該水準は、暗号資産期末時価評価損の損金不算入に伴う永久差異等の影響を含んだ実績ベースの税負担水準を反映したものであり、日本の標準的な法定実効税率（30.62%）を上回るものとなっております。

### 3. 業績予想と実績値の差異要因の分解（GAAP → 同評価損除外後ブリッジ）

業績予想と実績値の差異につきまして、当期純利益ベースでの差異 $\Delta 4,979$ 百万円（前回発表予想 $3,918$ 百万円 → 今回実績 $\Delta 1,061$ 百万円）を構成要素ごとに分解いたしますと、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

| 項目                                  | 金額             | 性質                                |
|-------------------------------------|----------------|-----------------------------------|
| 前回発表予想（2025年11月21日公表）当期利益           | 3,918          | —                                 |
| ① 本業セグメントの収益力増減（同評価損除外後・法人税固定ベース差異） | $\Delta 133$   | 法人所得税費用固定下での当期純利益ベース差異            |
| ② 暗号資産期末時価評価損（その他の費用）               | $\Delta 4,847$ | 非資金性／戻入可能                         |
| ③ 法人所得税費用の差異                        | —              | 法人税固定のため発生せず                      |
| 差異合計：①+②                            | $\Delta 4,980$ | うち暗号資産関連(②) $\Delta 4,847$ （非資金性） |
| 今回実績（当期純損失）＝予想+①+②                  | $\Delta 1,061$ | —                                 |

（注）金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。百万円未満の四捨五入により、①+②の単純合計（ $\Delta 4,980$ 百万円）と差異合計（ $\Delta 4,979$ 百万円）に1百万円の差が生じております。

本差異要因の分解においては、暗号資産期末時価評価損の損金不算入に係る法人所得税費用への影響を、上記2.記載のとおりGAAPベース実績における連結法人所得税費用 $2,482$ 百万円を固定して維持する方式を採用しております。

すなわち、暗号資産期末時価評価損 $\Delta 4,847$ 百万円が当期純損失計上の主因であり、本業セグメントの収益力は、法人所得税費用固定下の当期純利益ベースで前回発表予想に対し概ね横ばい（ $\Delta 133$ 百万円・ $\Delta 3.4\%$ ）の水準で着地しております。一方、税引前利益ベース（同評価損除外後）では前回発表予想を $+277$ 百万円（ $+4.6\%$ ）、営業利益ベース（同評価損除外後）では前回発表予想を $+458$ 百万円（ $+7.6\%$ ）それぞれ上回って着地しており、本業の収益基盤は前回発表予想策定時の想定を上回って堅調に拡大していることを確認しております。

### 4. 暗号資産期末時価評価損の計上について

（変更なし。当初開示（2026年5月15日付）と同一の内容につき、省略なく以下に全文掲載いたします。）

当社は、当連結会計年度（2026年3月期）に係る連結財務諸表において、当社グループが保有する暗号資産（主としてビットコイン）に係る期末時価評価に伴う評価損 $\Delta 4,847$ 百万円を、その他の費用として計上いたしました。

#### （1）期末評価価格の決定

| 項目         | 内容  |
|------------|---|
| 採用価格       | ¥10,850,000 / 1BTC                            |
| 参照取引所      | SBI VC トレード株式会社（金融庁登録 暗号資産交換業者、関東財務局長第00011号） |
| 基準日時       | 2026年3月31日 24:00 JST（終値）                      |
| 適用会計基準     | IAS第38号「無形資産」原価モデル                            |
| 公正価値ヒエラルキー | レベル1（同一資産の活発な市場における未調整相場価格）                   |
| 連結保有数量     | 約807.38BTC                                    |
| 連結貸借対照表計上額 | 8,767百万円（期末時価評価後）                             |

#### （2）計上額及び計上区分

- ・計上額： $\Delta 4,847$ 百万円 ・計上区分：連結損益計算書「その他の費用」
- ・当連結会計年度末の保有暗号資産（ビットコイン）の連結貸借対照表計上額：8,767百万円（期末時価評価後）

### (3) 当該評価損の性質

- ① 非資金性損失：現金支出を伴わず、キャッシュ・フロー生成力には何ら影響を及ぼしません。
- ② 戻入可能性：暗号資産の市場価格の回復に応じて、将来の報告期間において評価益として戻入れされる性質のものです。
- ③ 本業との独立性：当該評価損は本業の収益基盤・事業運営状況・競争優位性のいずれにも変動を生じさせるものではありません。本業の収益力は、上記3. のとおり、暗号資産期末時価評価損の影響を除いた営業利益ベースで前回発表予想を+458百万円 (+7.6%)、税引前利益ベース（同除外後）で+277百万円 (+4.6%)、それぞれ上回って着地しております。

### 5. 翌連結会計年度（2027年3月期）第1四半期以降における評価益戻入の可能性

（当初開示と同一の内容につき、省略なく全文掲載。）

上記4. のとおり、当該評価損は暗号資産の市場価格の回復に応じて将来の報告期間において評価益として戻入れされる性質のものです。本書提出日時点における市場価格水準が翌連結会計年度第1四半期末（2026年6月30日）まで大きく変動することなく推移するという保守的な前提に立った場合においても、当連結会計年度において計上した評価損△4,847百万円のうち相当額が翌連結会計年度第1四半期において評価益として戻入れされる蓋然性が高い状況にあると当社は認識しております。当社は、翌連結会計年度第1四半期決算における暗号資産の期末時価評価結果につきまして、その内容に応じて適時かつ適切に開示いたします。

### 6. 事業セグメント別の売上収益及び営業利益（セグメント利益）の予想と実績値との差異

#### (1) 事業セグメント別の売上収益（外部顧客）の予想と実績値との差異

（単位：百万円）

| 事業セグメント           | 前回発表予想 (A) | 今回実績 (B) | 増減額 (B-A) | 増減率 (%) | 方向  |
|-------------------|------------|----------|-----------|---------|-----|
| ネイル事業             | 3,500      | 3,248    | △252      | △7.2    | 下回る |
| コンサルティング事業        | 6,550      | 8,288    | +1,738    | +26.5   | 上回る |
| ヘルスケア事業           | 2,600      | 2,339    | △261      | △10.0   | 下回る |
| インベストメント&アドバイザー事業 | 2,550      | 1,642    | △908      | △35.6   | 下回る |
| 連結（外部顧客）          | 14,950     | 15,517   | +567      | +3.8    | 上回る |

（注）1. 金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。

2. インベストメント&アドバイザー事業のセグメント計（外部顧客に対する売上収益とセグメント間の内部売上収益との合計額）は3,234百万円（前回発表予想2,550百万円に対し+684百万円、+26.8%）であります。

#### (2) 事業セグメント別の営業利益（セグメント利益）の予想と実績値との差異

（単位：百万円）

| 事業セグメント           | 前回発表予想 (A) | 今回実績 (B) | 増減額 (B-A) | 増減率 (%) | 方向  |
|-------------------|------------|----------|-----------|---------|-----|
| ネイル事業             | 260        | 116      | △144      | △55.4   | 下回る |
| コンサルティング事業        | 1,830      | 2,873    | +1,043    | +57.0   | 上回る |
| ヘルスケア事業           | 1,510      | 1,555    | +45       | +3.0    | 上回る |
| インベストメント&アドバイザー事業 | 2,390      | △2,755   | △5,145    | —       | 下回る |
| 調整額（全社費用等）        | —          | △188     | —         | —       | —   |
| 連結営業利益            | 5,990      | 1,601    | △4,389    | △73.3   | 下回る |

（注）金額は、百万円未満を四捨五入して記載しております。インベストメント&アドバイザー事業のセグメント損失△2,755百万円には、当連結会計年度末における当社グループ保有暗号資産（ビットコイン）の期末時価評価に伴う

評価損△4,847百万円（その他の費用）が含まれております。当該評価損の影響を除外した場合の同事業のセグメント利益は2,092百万円（=△2,755+4,847）となり、前回発表予想2,390百万円に対し△298百万円（△12.5%）の水準で着地しております。

### （3）事業セグメント別の差異発生理由

#### ① ネイル事業（売上収益△252百万円・△7.2%/営業利益△144百万円・△55.4%）

ネイル事業につきましては、売上収益が前回発表予想3,500百万円に対し3,248百万円（△252百万円・△7.2%）、セグメント利益が前回発表予想260百万円に対し116百万円（△144百万円・△55.4%）となり、いずれも前回発表予想を下回って着地いたしました。

当該差異の主たる発生理由は、当社グループのネイル事業ブランド「ファストネイル」におけるブランドエクイティ強化及び長期的な顧客基盤拡大を目的とした先行投資費用（WEBマーケティング投資、ブランド広告投資、SNS/インフルエンサー連携投資、エリアマーケティング投資、デジタル予約・CRM基盤高度化に係るIT投資等）が、前回発表予想策定時の想定を上回って発生したことによるものであります。これらの先行投資は、翌連結会計年度（2027年3月期）以降の売上収益・営業利益の持続的成長を目的として戦略的に実行したものであります。

#### ② コンサルティング事業（売上収益+1,738百万円・+26.5%/営業利益+1,043百万円・+57.0%）

コンサルティング事業につきましては、売上収益が前回発表予想6,550百万円に対し8,288百万円（+1,738百万円・+26.5%）、セグメント利益が前回発表予想1,830百万円に対し2,873百万円（+1,043百万円・+57.0%）となり、いずれも前回発表予想を大幅に上回って着地いたしました。

当社連結子会社である株式会社DataStrategyが推進するAIマーケティング・データ分析事業及び株式会社Convano consultingが推進するDX推進コンサルティング事業を中核に、大型案件の獲得が想定を大幅に上回るペースで進捗いたしました。当該事業はサービス特性上の販管費率が相対的に低く、案件規模の拡大に伴いマージンが拡大するスケールビリティを有していることから、売上収益の上振れ幅（+26.5%）を上回る営業利益の上振れ幅（+57.0%）の実現につながったものであります。

#### ③ ヘルスケア事業（売上収益△261百万円・△10.0%/営業利益+45百万円・+3.0%）

ヘルスケア事業につきましては、売上収益が前回発表予想2,600百万円に対し2,339百万円（△261百万円・△10.0%）と前回発表予想を下回って着地した一方、セグメント利益は前回発表予想1,510百万円に対し1,555百万円（+45百万円・+3.0%）と前回発表予想を上回って着地いたしました。売上収益が下回った主たる理由は、株式会社シンクスヘルスケアにおける糸リフト関連商材の販売体制整備が第4四半期に本格化したことに伴い、一部の販売案件が翌連結会計年度に繰り越されたことによるものであります。

#### ④ インベストメント&アドバイザー事業（売上収益△908百万円・△35.6%/セグメント損失△2,755百万円）

インベストメント&アドバイザー事業につきましては、売上収益（外部顧客）が前回発表予想2,550百万円に対し1,642百万円（△908百万円・△35.6%）、セグメント損失が△2,755百万円（前回発表予想セグメント利益2,390百万円に対し△5,145百万円）となり、いずれも前回発表予想を大幅に下回って着地いたしました。当該差異の主たる発生理由は、当連結会計年度末における当社グループ保有暗号資産（ビットコイン）の期末時価評価に伴う評価損△4,847百万円の計上であります。当該評価損の影響を除外した場合の同事業のセグメント利益は2,092百万円（=△2,755±4,847）であり、前回発表予想2,390百万円に対し△298百万円（△12.5%）の水準で着地しております。

## 7. 今後の見通し

翌連結会計年度（2027年3月期）の連結業績予想につきましては、本日公表の「2026年3月期決算短信〔IFRS〕（連結）」のとおり、売上収益26,752百万円、営業利益8,957百万円、税引前利益9,000百万円、当期利益5,820百万円を予想しております。当該業績予想は、当社が保有する暗号資産の期末時価評価による影響を含めておらず、当該評価変動による影響については、決算時点での市場価格に応じて別途認識される業績予想に対する変動要因となります。

当社は、引き続き、事業セグメントごとの成長と収益性向上を主軸としつつ、M&A投資・デジタル投資・人材投資を機動的に実行し、第3次中期経営計画で掲げる売上・利益目標の達成を目指してまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上